

夢と生きがいのある電設業界を目指して

一般社団法人 日本電設工業協会 専務理事 池内 眞一

1 はじめに

建設産業は、長年の建設投資の減少に伴い受注競争が激化する中で、就労環境が悪化し、他産業を上回る就労者の高齢化と若年入職者の減少等により、産業の生産の場である「建設現場」での人材不足が顕在化するとともに、産業の維持・発展への大きな課題となりつつある。

特に、労働集約産業である「電気設備工事業界（以下、「電設業界」という）」が、今後とも健全・持続的に発展していくためには、将来を担う優秀な人材の確保が必要不可欠であり、若年者の入職

促進が急がれるところである。

日本電設工業協会（電設協）では、このような観点から、協会事業活動の優先的かつ重点的な取り組みを取りまとめた「アクションプラン」¹の四つの重点目標の第一に「優秀な人材の確保と技術・技能の継承」を掲げている。

業界就業者が「生涯を託せる“夢と生きがい”のある電設業界」であることを目指して、電設協が進める“担い手の確保・育成”に向けた主要な取り組みを、以下に紹介する。

1 電設業界の発展を目指す四つの重点目標の達成に向け、具体的な九つのアクション・取り組みを定めた3ヵ年間の行動計画（H25.3策定）

平成25年度 日本電設工業協会アクションプラン（骨子）	
○ 電気設備業界の4つの重点目標達成に向け、9つのアクションプランを設定 ○ プライオリティーと関係者との連携強化の2つの視点に立って 実現に取組む	
目標Ⅰ：優秀な人材の確保と技術・技能の継承	
⇒ 優秀な人材の継続的な確保と技術・技能の継承に向けてのアクション	
① 登録基幹技能者の処遇改善の具体化と有効活用及び適正評価の推進	④ 支部、都道府県協会が取組む人材確保・育成事業の支援
② 社会保険加入促進による技能労働者の労働環境の改善	⑤ 学生の職業選択基準の把握
③ 中小会員企業が実施する人材確保・育成の取組に対する支援	
目標Ⅱ：適正な価格・適正な工期での受注の確保	
⇒ 高品質な電気設備を適正な価格・適正な工期で提供するためのアクション	
⑥ 適正な受電時期の設定	⑦ 設計図書の精度向上
目標Ⅲ：分離発注の推進	
⇒ 品質とコストの関係が透明かつ明確で経済合理性に適った分離発注の推進へのアクション	
⑧ 分離発注の浸透に向けた提案力の強化	
目標Ⅳ：省エネルギー対策の強化と再生可能エネルギーの活用	
⇒ 社会的要請に応える新たな電設業界に向けてのアクション	
⑨ 新たなビジネスモデルの方向性の提案	
【2つの視点】	
1. プライオリティー：会員のためになる、優先度が高い協会活動を推進	
2. 関係者との連携強化：関係者との連携強化を図り、具体的な成果を目指す	

図1 アクションプラン（骨子）

2 新たな試みの展開

電設協では、従来から実施する人材確保・育成に向けた取組み（後段3、4）に、本年度から新たに、以下の二つの取組みを加え、更なる対応を進めている。

（1）電設業界を知ってもらうための情報発信

～「電気設備業界プロモーションコーナー」～

電設協では、電気設備の総合展示会「JECA FAIR（電設工業展）」を毎年開催している。この会場には、3日間の会期で延べ10万人以上が来場しており、業界関係者に留まらず、学生も多数来場している。

JECA FAIR 2015（第63回電設工業展）では新たな試みとして、10万人超が集う展示会の「場」を活用し、展示会場に「電気設備業界プロモーションコーナー」を併設し、“学生に電気設備業界を知ってもらう”ためのイベントを実施した。

同コーナーでは、①会員企業の知名度アップと会員企業への入職促進を図ることを目的として、設置を希望する会員企業35社の「会社案内や入社案内リーフレット」をコーナーに配置し、来場学生に配布するとともに、②産業の生産の場である「建設現場」の第一線で活躍する会員企業（11社）に所属する女性2名を含む23名の技術者による“現場での仕事”を、学生に紹介する「パネルディスカッション」を実施した。

「パネルディスカッション」では、前段としてマイナビ就職支援担当者による学生に役立つ就活セミナーに続き、現場で活躍している「若手技術者」（10名）や「ベテラン技術者」（11名）、「女性技術者」（2名）が、入社のも動機や現在の仕事内容、仕事のやりがい、仕事で苦労したこと、職場の雰囲気、教育・研修等の社内制度のほか、今後の抱負、学生へのメッセージ等を普段着（作業服）のまま直接語りかけ、電気設備工事業界への「興味の芽生え」と「魅力」をコーナー来場の

158名の学生等に伝えた。

パネラーからは、入社のかっけとして、

「東日本大震災を経験して、形になるもので地元東北に貢献したいと思った」

「学生時代に施工管理技士という資格を知った。

現場をテキパキと指示する現場代人に憧れた」

また、苦労話しや仕事のやりがいとして、

「平面の図面から立体的な仕事を職人さんに伝えるのに苦労している。でも同じ職人さんに他の現場で声をかけてもらったときは嬉しかった」

「2年間の工期の末に地図に残るランドマークを造り、これまでの苦労を忘れさせてくれた」

など、かつての思いや現場の楽しみが来場者に

語られたほか、

「現場では年上の職人さんに指示することもある。また人との接し方によって作業効率が変わる。学生時代にコミュニケーション・人との接し方を学んで欲しい」など、

電設業界を目指す学生に対し、貴重なアドバイスがなされた。

「電気設備業界プロモーションコーナー」の来場者からの評価については、アンケート結果を見ると（図2）、「非常に参考になった」と3割が回答し、6割が「参考になった」と回答している。特に自由記述（表1）では、ネット世代の若者から「ネットでは得られない生の声が聞けた」、「実際に現場に出ている方の話しを聞けたのは貴重だった」など、前向きな意見や評価を得た。今後、更に学生との直接の接点の場の拡大を図りながら、入職促進策を進める企画を展開したいと考えている。

電設業界を知ってもらう取組みについては、「電気設備業界プロモーションコーナー」の設置に加え、近年の就活情報の入手媒体として、学生に広く利用されている“マイナビ”のホームページに「電気設備業界就職情報ポータルサイト」（図3）（<http://job.mynavi.jp/conts/2016/tok/jeca/>）を開設し、①電設業界の魅力や社会的役割、技術社員の働き方等を紹介するコンテンツのほか、②

個々の会員企業の企業案内や採用に向けた情報を、業界からの最新情報として、就活中の学生に提供している。現在、会員企業の1割強の42社がこのサイトに情報を掲載している（就職内定時期の2015年10月末までサイトを展開している）。



写真1 パネルディスカッションの様子

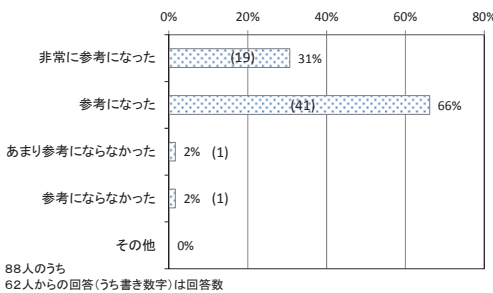


図2 プロモーションコーナーの内容についてのアンケート

表1 プロモーションコーナーの感想

自由意見(フリー記述・コーナー来場者の声)	
1	・ 精一杯勉強しました。社員体験の話し、面白い。
2	・ 実際の声が聞けたのでいい経験になりました。
3	・ 今後就職をする上で色々参考になることが多かった。
4	・ ネットではえられない事など色々な情報が得られた。
5	・ 将来の就職について有用な情報を得る事ができ、大変勉強になりました。今日の就職支援講座で得た知識を元に就職活動を頑張りたいと思います。
6	・ 通常だとあまり聞けないようなことをきくことができた。
7	・ 司会者の方が、自分の知りたい質問を言ってくれて、理解度が増しました。
8	・ 現場で働いている人のお話はとても貴重なものでした。とても有意義な時間を過ごせました。
9	・ 働きつつ好きなことをする時間を作ろうと思った。
10	・ 実際に現場に出ている方達の話を開けたのはすごく貴重だった。
11	・ 先輩方のお声はこれからの就職活動に参考になりました。
12	・ 生の声で顔が見えるのでネットで文字を読むより色々分かることがあった。
13	・ 就職・業界の情報を得ることが出来た
14	・ 先輩方の生の声が聞けてとても参考になった。
15	・ 今まで聞いてきた話と重複していたり、初めて聞いたりしたことが半々でした。このディスカッションが今後のことに少しでも参考になりたいと思います。
16	・ 色々ためになりました。
17	・ 進みがスムーズだった
18	・ 実際の話が聞けて良かったです。自分も電気工事の職につきたいと思っていたのでとてもよかったです。
19	・ 実際に仕事をしている人の意見を聞いた。
20	・ 業界のことがよく知れた。
21	・ 丁寧で聞きやすかったです。
22	・ 色々な話が聞けて良かった。
23	・ 現場の人達の生の声が聞けて良かった。現場を取り仕切るのは大変であると改めて思った。どの分野でもコミュニケーション力(人間関係)は大切であると改めて思った。
24	・ 自分は就職していますが、話を聞いてとても参考になりました。



図3 電気設備業界就職情報ポータルサイト



図4 ロゴマーク

(2) 実技講習会の開催

～大手会員企業の教育研修施設を活用した実技講習会の開催～

電設協では、技能者育成の新たな試みとして、会員から要望の多い「実技講習会」について、大手会員企業の教育研修施設と講師・ノウハウを活用し、支部・都道府県協会が主体となって開催する仕組み²を構築し、昨年度、4支部の6研修施設で15の実技講習会を開催した。この実技講習会に参加した20の都道府県協会の受講者174名からは、「地元ではこのような機会はめったにないので、参加できて良かった」、「実物の機器を見て直接触り、操作できるのは良かった」など、施設環境が整う研修施設での実技講習への評価の声（表2）が寄せられた。

昨年度の試行結果を踏まえつつ、本年度は、全

2 大手会員企業の教育研修施設を借用するとともに、講師・ノウハウ等の提供を受け、電設協が調整役となり、支部・都道府県協会が主催者として実技講習会を開催

国9支部の12施設で26の実技講習会の開催を予定(表3)している。電気設備工事現場の“かなめ”となる技能者に技能訓練の場と機会を設け、業界

全体で担い手の育成を推進する事業を更に推進したいと考えている。

表2 実技講習会受講者アンケート

選択肢	実数	割合
①とても役に立った	60	55.0%
②役に立った	46	42.2%
③普通	3	2.8%
④あまり役に立たなかった	0	-
⑤全く役に立たなかった	0	-
⑥その他	0	-
計	109	100%

～フリー回答から①と②選択者の声をピックアップ～

- ・ 検電、インターロック、停復電作業ととてもわかりやすく良い講習でした。多くの人に受講して欲しいと思いました。
- ・ 今まで不明な点があったが、今回の講習で実物を見て体験をし、理解できた部分が沢山あった。
- ・ このような講習会で学んだ上で実務に当たれば安全で安心して作業ができると思う。
- ・ 地元では、このような機会が減多にないので、参加できて良かった。
- ・ 毎日現場でやっていることで、不備がある事を再認識しました。今後の現場に生かせればと思いました。



写真2 実技講習会実習風景

表3 平成27年度「実技講習会」会場一覧

教育研修施設	講習会名	講習日数・講習時間 講習内容等(概要)
北海道 北海道電力 北海道電力 北海道電力	① 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(7H+6H)の計13時間 ・公表候補問題10問の演習など
東北支分部内	② イ. 受変電設備【技術】講習会	1.5日間 ・実技(4.3H+6.5H)の計10.8時間 ・模擬盤を使用した停復電操作など
	③ ロ. 受変電設備【技術】講習会	1.5日間 ・実技(4.3H+6.5H)の計10.8時間 ・模擬盤を使用した停復電操作など
北陸支分部内	④ イ. 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(7H+7H)の計14時間 ・基本作業+4課題の演習など
	⑤ ロ. 高圧・特別高圧電気取扱者 特別教育	2日間 ・座学(1.5H)+実技(1H)の計2.5時間 ・基礎知識:活線作業、充電器の操作実習など
	⑥ ハ. 低圧電気取扱者 特別教育	1日間講習 ・座学(7)+実技(1H)の計8時間 ・基礎知識:活線作業、開閉器の操作実習など
	⑦ ニ. 第二種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(7H+7H)の計14時間 ・基本作業+4課題演習など
関東支分部内	⑧ イ. 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(14H)の計14時間 ・公表候補問題10問演習など
	⑨ ロ. シーケンス基礎【実技】講習会	2日間 ・座学(7.5H)+実技(7H)の計14.5時間 ・基礎知識、回路組立実習など
	⑩ イ. 受変電設備の概要と停電・復電【操作】講習会	2日間 ・座学(8H)+実技(6H)の計14時間 ・機器の操作、停電・復電作業など
	⑪ イ. 低圧電気取扱者 特別教育	1日間 ・座学(7.8H)+実技(1H)の計8.8時間 ・基礎知識:活線作業、計画書作成・実技演習など
	⑫ ロ. 高圧・特別高圧電気取扱者 特別教育 電気工事作業指導者 安全教育	2日間 ・座学(13H)+実技(2.5H)の計15.5時間 ・基礎知識:活線作業、電気工事作業指導者の職務など
	⑬ ハ. 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・座学(2H)+実技(14H)の計16時間 ・基本作業、課題作成など
中部支分部内	⑭ イ. シーケンス【実技】講習会	2日間 ・座学(9.8H)+実技(5H)の計14.8時間 ・基礎知識、電圧開閉器等による回路実習など
	⑮ ロ. 自家用受変電設備・自主検査【実技】講習会	2日間 ・座学(3.7H)+実技(11H)の計14.7時間 ・受変電設備の解説、受変電設備の動作試験など
東海支分部内	⑯ イ. 第一種電気工事士【筆記・技能】試験受験対策講習会	4日間 ・座学(14H)+実技(14H)の計28時間 ・過去問題の演習と解説、公表候補問題10問の演習など
	⑰ ロ. 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会 (※上記講習会うち技能のみ受講)	2日間 ・実技(14H)の計14時間 ・公表候補問題10問の演習など
	⑱ ハ. 第二種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(14H)の計14時間 ・公表候補問題13問の演習など
関西支分部内	⑲ イ. 受変電設備の概要と停電・復電操作講習会	2日間 ・座学(8H)+実技(6H)の計14時間 ・機器の操作、停電・復電作業など
	⑳ ロ. 受変電設備の概要と停電・復電操作講習会	2日間 ・座学(8H)+実技(6H)の計14時間 ・機器の操作、停電・復電作業など
中国支分部内	㉑ イ. 第二種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技のみ14時間 ・基本作業、課題作成、公表課題の演習など
	㉒ ロ. 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技のみ14時間 ・基本作業、課題作成、公表課題の演習など
四国支分部内	㉓ イ. 安全【体感】教育講習会	1日間 ・実技のみ7.5時間 ・高圧感電・絶縁遮断等の再現、墜落衝撃体験など
	㉔ ロ. 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(9.2H+7.6H)の計16.8時間 ・課題10問の演習など
九州支分部内	㉕ イ. 第二種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(7H+7H)の計14時間 ・基本作業、課題作成・公表候補問題の演習など
	㉖ ロ. 第一種電気工事士【技能】試験受験対策講習会	2日間 ・実技(7H+7H)の計14時間 ・基本作業、課題作成・公表候補問題の演習など

3 若年者の入職促進への取組み ～会員企業が進めるインターンシップの支援～

若年労働者人口が減少する環境下において将来を担う若者を業界に呼び寄せることは、電設業界全体の発展のために極めて重要な課題である。

このような背景のもと、電設協の会員企業では、会員企業が所在する地元の工業高等学校等からの要請を受け、厳しい経営環境の中で、学生の就労体験・インターンシップに独力で取り組み、学生を受け入れることにより、若者の就労意識の向上と地域社会に貢献している。

電設協では、このような会員企業の取組みの重要性に鑑み、インターンシップの負担が相対的に大きい中小会員企業³が実施するインターンシップを支援するため「インターンシップ推進助成金制度」⁴を創設した。制度運用の平成23年度から昨年度までの4カ年の間に、延べ57社がこの助成金を活用し、総数177名の学生がインターンシップ生として電設業界を身近に経験し、会員各企業で就労体験をした(図5)。

この助成金制度の目的は、明日(将来)の世代を担う若者・学生に対して、会員企業・電設業界でのインターンシップ・就労体験を通じて、電設業界の魅力を紹介し、入職の“きっかけ”を提供することにより、「業界が全体」として、学生との接点の場の拡大を図りながら優秀な人材の確保を目指すものである。

今後とも、この活動を通じて学生に、業界への理解と身近さを感じてもらい、中長期的視野のも

3 「中小企業基本法」に定める中小企業(資本金・出資金が3億円以下、又は常用雇用者が3百人以下のいずれかに該当する会社)で、電設協の正企業会員

4 <助成概要>
教育機関(工業高等学校、大学、教育委員会等)からの要請に基づき、インターンシップを実施した場合、次のとおり助成。
学生受け入れ経費として、受入学生1名当たり日額3千円を助成(受入学生数上限10名&受入日数上限10日間&1社当たりの助成限度額年間10万円)

と業界の認知・知名度アップと入職者増を期待している。



図5 インターンシップ推進助成金リーフレット&インターンシップレポート等

4 講習会メニューを活用した 人材育成への取組み

電設業を支えているのは、そこで働く優秀な技術者・技能者であり、両者の職業人としての高い能力により安全・安心で高品質な電気設備工事が提供できる。

このような観点から電設協では、技術者・技能者の入職・経験レベルに応じた講習メニュー(技術系17講習会、その他3分野)を作成し、この講習メニュー(技術系講習会)を利用し、支部・都道府県協会が講習会を開催する際には、電設協会会員企業等に所属するベテラン技術者等を講師として無料で派遣するとともに、会場運営に係る費用

(会場借用料・資料コピー代等)の一部を助成している。昨年度は、32の都道府県協会がこの講習メニューを利用し、当該協会に所属する会員企業の従事者3,000名弱が、79の講習会を受講した(図6)。

また近年、都道府県協会では、この講習メニューを利用した講習会を、技術者等の能力維持・資質向上を図ることを目的とした継続教育(CPD)と位置付けて開催する傾向にあり、全体開催数の約4割の29の講習会が「CPD認定講習会」として開催されている(図7)。

電設協は今後とも、入職後のアフターケアの充実を図りながら、技術・技能の継承に向けた取り組みを進めることとしている。

5 おわりに

電設協では前述のほか、社会保険の加入促進、登録電気工事基幹技能者の有効活用・適正評価など、種々の課題に適切に対応し、電設業界への明日(将来)を目指し、活動を展開したいと考えているところである。

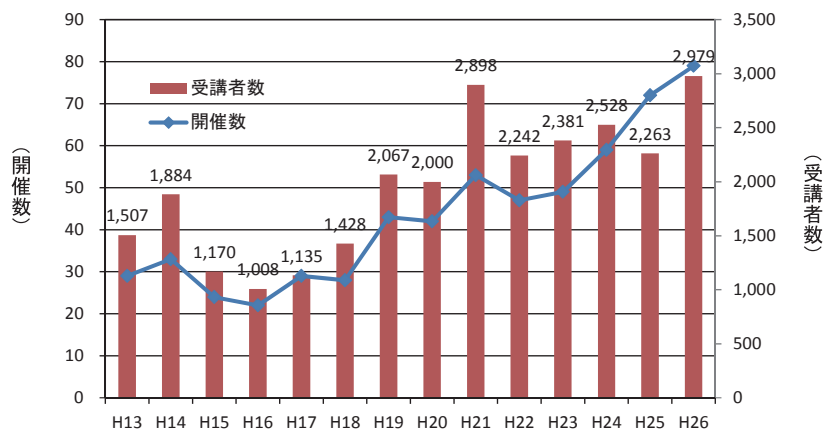


図6 講習会メニューに基づく講習会の利用状況と受講者数の推移

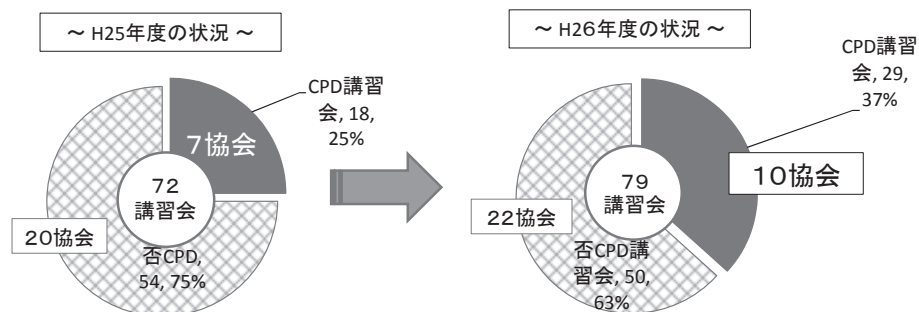


図7 講習会メニューの「CPD」としての活用状況